

千葉県で2例目の高病原性鳥インフルエンザ疑似患畜確認

中丹家畜衛生情報（No.22-106）

平成23年3月発行

- ◎ 3月17日、千葉県の肉用鶏農場で2例目の疑似患畜が確認されました。
 - ・発生農場 千葉県千葉市（肉用鶏26000羽飼養）
 - ・経緯 1例目（3/13）の発生農場を中心とする移動制限区域内の農場検査実施。
1農場で本病が疑われるウイルスが分離されたため、遺伝子検査を実施したところ、H5亜型を確認し、疑似患畜と判定。

- ◎ 本病の専門家の京都産業大学大槻教授の次のコメントのとおりしばらく警戒が必要です。

夏期をシベリア等の北アジアで過ごした渡り鳥は、該当地域で相当数の鳥群がウイルスを保有していた状況にあり、その渡り鳥から国内の留鳥や小動物にまで広範囲にウイルスが伝搬した状況がある。

また、春先に渡り鳥が北への移動を開始することで、さらにウイルスをばらまくことになるため、春先に渡り鳥が去っても留鳥や小動物が感染したままの状態になっている可能性は非常に高い。

そのため、4月頃に発生することも十分にあり得る。まだまだ警戒を解く時期ではない。

ウイルス侵入防止対策の徹底を！

① 消毒は二重に

- ・出入口は液体消毒剤で長靴消毒
- ・さらに、消石灰で靴底消毒

② 防鳥ネットの破損の点検を毎日実施

③ ネズミの侵入口の閉鎖とネズミの駆除徹底

④ 部外者の立ち入り制限

- ・やむを得ず立ち入る場合は徹底的に消毒。駐車場も消石灰散布で消毒



飼養鶏に異常を認めたら直ちに当所に連絡願います！！

京都府中丹家畜保健衛生所 福知山市字半田371-2

TEL: 0773-25-1860（夜間・休日も転送機能で連絡可能）

日本における高病原性鳥インフルエンザの確認状況

平成23年3月17日

- : 家きん
- : 家きん以外の鳥類
- : 野鳥

〈平成22年〉
12月 富山県高岡市（動物園のコブハクチョウ）
〈平成23年〉
2月 兵庫県加東市（公園のコブハクチョウ）
山口県宇部市（公園のコクチョウ）

野鳥での確認事例
全15県

〈平成23年〉
3月 千葉県千葉市（2例）
（2農場 約97,000羽）

〈平成22年〉
10月 北海道稚内市（カモの糞）
12月 鳥取県米子市（コハクチョウ）
鹿児島県出水市（ナベヅル）
〈平成23年〉
1月 北海道浜中町（オオハクチョウ等）
福島県郡山市（キンクロハジロ）
兵庫県伊丹市（ホシハジロ・カイツブリ）
鳥取県米子市（ユリカモメ・キンクロハジロ）
島根県松江市（キンクロハジロ）
高知県仁淀川町（オシドリ）

2月 北海道浜中町（オオハクチョウ）
福島県福島市（コハクチョウ）
栃木県宇都宮市（ハヤブサ）
京都府精華町（ハヤブサ）
兵庫県西宮市（カンムリカイツブリ）
鳥取県大山町（キンクロハジロ）
米子市（ホシハジロ、ハヤブサ）
島根県松江市（キンクロハジロ・ホシハジロ）
山口県宇部市（キンクロハジロ）
徳島県那賀町（フクロウ）
長崎県長崎市（オシドリ）
諫早市（ハヤブサ）
大分県中津町（オシドリ）
大分市（オシドリ、アオサギ）
宮崎県諸塚村（カイツブリ）
日南市（オシドリ）
延岡市（ハヤブサ）
宮崎市（ハヤブサ、オシドリ）
鹿児島県出水市（ナベヅル）
3月 青森県三沢市（ハヤブサ）

〈平成23年〉
〈大分県〉
2月 大分市
（1農場 約1万羽）

〈宮崎県〉
1月 宮崎市（佐土原町）、
新富町、都農町、川南町、
延岡市（北川町）、
高鍋町、宮崎市（高岡町）
2月 高千穂町、都農町、
門川町、宮崎市（高岡町）、
延岡市（北浦町）
3月 門川町
（13農場 約102万羽）

〈鹿児島県〉
1月 出水市
（1農場 約8,600羽）

家きんでの発生事例
全9県 24農場 約185万羽

〈平成22年〉
11月 島根県安来市
（1農場 約2万羽）

〈平成23年〉
〈奈良県〉
2月 奈良県五條市
（1農場 約10万羽）

〈和歌山県〉
2月 紀の川市
（1農場 約12万羽）

〈平成23年〉
〈愛知県〉
1月 豊橋市
2月 新城市
（2農場 約17万羽）

〈三重県〉
2月 紀宝町
南伊勢町
（2農場 約31万羽）

※ 現在、性状を検査して判明しているものについては、全てH5N1亜型（強毒）です。